

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	夢や目標をもてるよう「導き」、身に付く力となるよう「鍛え」、一人一人に「寄り添い」ながらニーズに合った指導や支援を行い、成長や変化を「見届け」て工夫・改善に取り組むことで、児童が「明日も行きたいと感じる学校」の実現を目指す。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標： <u>学力の向上</u> 手段： 1 「ひなたの学び」を意識した 日々の授業実践 2 自分の考えや思いを豊かに表 現する力の育成 3 進んで読書に取り組む児童の 育成 4 家庭学習に工夫しながら取り 組む児童の育成	1 について (1) 今年度主題研究で、算数科を中心とした「主体的・対話的で深い学び」について、 研修や研究授業を行ってきた。子どもたちのゴールの姿を具体的にイメージし、 全職員で共通理解した上で、授業づくりを行ったことで、授業改善が図られたと 思われる。 (2) 年度当初に「学びの土台」を全職員で共通理解し、全校で統一した指導を継続し て行ったため、基本的な学習習慣・規律が身に付いている。単元テストは目標を ほぼ達成しているが、個人差があるため、紙屋タイムを活用して指導していく必 要がある。 (3) 日頃から各学年で ICT を積極的に活用して、授業の充実を図っている。今年度は スマイルネクストを導入し、授業はもちろん、家庭学習においても活用し、個別 最適な学びを進めてきた。ICT 支援員の協力もあり、職員・児童の ICT スキルが 向上している。次年度は効果的な活用について主題研や夏休みの研修で ICT 支援 員の研修を行いたい。	3.1	3.6	・個性的な児童への受容と配慮のあり方が 素晴らしいと感じた。 ・学童タイムの有効活用と連携でもっと学 力向上も期待できそうな気がする。 ・音読活動について、昔話等の本を読んで テープに吹き込んで園児や茶飲ん場の高 齢者、地域の方々に聞いてもらい、お互い に活力アップにつなげられないか。 ・基本的な学習習慣・規律が身に付いたこ とは良いと思います。 ・人の話を聞いたり、自分の考えを伝えら れることは素晴らしいです。新聞やラジオ で作品が紹介されるのもうれしく思いま す。 ・読み聞かせを充実させて本に興味をもた せ自ら本を読むということに繋がってい くと思うので続けていただきたい。 ・家庭学習が根付くためには指導、啓発を 持続しなくては根付いていけないと思い ます。 ・多くの児童が様々な作品展等に応募し、 受賞したり新聞等に掲載されたりしてい るのを見るのは楽しみでもあり、児童の励 みになるので、これからも期待します。 ・一人ひとりの学習意欲や理解度に応じて 個別指導が丁寧に行われており、児童も自 信が付き宿題にも意欲的に取り組んでい る。 ・学習する時、目が近かったり椅子の座り 方が悪かったりする子がいるので継続的 な指導をお願いしたい。 ・いろいろな作品募集に積極的に参加して おり、それが認められることで意欲的にな り、いろいろな環境や出来事に興味関心が 深まると思う。 ・先生たちの工夫された学習や研究授業で 子どもたちのやる気と興味が確かに育っ ていると思う。準備等、大変だと思います ありがとうございます。
		2 について (1) 対話的な活動を意図的に取り入れて授業改善を進めてきたことにより、話を聞い たり自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。しかし、まだま だ考えを練り合う段階においての話合い活動が充実しているとは言い難い。教科 や問題の本質をとらえながら練り合う活動について主題研を通して研究を深めて いきたい。今後も授業内外において、スピーチや日常指導を継続していく必要が ある。 (2) 今年度は紙屋タイムの時間に、全校で音読活動に取り組んだ。縦割りでの活動や 各学年による音読発表会を行い、音読に親しんだり個や全体の知識・技能が向上 したりしたと思われる。 (3) 今年度は多くの児童が様々な賞を受賞した。また、新聞やラジオでも多くの児童 の作品が掲載・放送された。作品募集に取り組むことで、児童の表現力の育成に つながった。			
		3 について (1) 学年部に応じた年間読書数の目標はおおむね達成することができたが、学校図書 館の利用者が少なかったり固定化されていたりする課題もある。図書委員会の活 動や図書支援員との連携、ひなた電子図書館の活用を図り、更なる充実を進めて いく必要がある。また、図書担当職員が生徒指導部にいたり、図書委員会の担当 ではなかったりして活動がしづらかったため、改善したい。 (2) 読み聞かせが定期的にあることで、本への興味関心が高まっていると感じる。家 読に取り組むことで、家でも読書をする習慣が身に付いてきている。			
		4 について (1) 年度当初に紙屋タイムで全校に指導したり学級懇談会で保護者に啓発したりす るなど、家庭学習の手引きを活用した指導や啓発を行った。また、小中学校で「家 庭学習振り返り週間」を設定し、児童・保護者の両方が家庭学習について見直す ことができた。 (2) 家庭学習(「けてぶれ」)についての書籍を全職員購読したり研修したりするこ とで、職員の共通理解のもとに進めることはできた。また、週末を中心に「自学の 日」を設定する取り組みを行うことなどにより、児童が自身の家庭学習について 考える機会は増えたと考えられる。しかし、個人差や学年差が大きく、まだまだ 自立した学習者とは言い難い。			
徳 育	重点目標： <u>豊かな心の育成</u> 手段： 1 基本的な生活習慣の形成 2 思いやりの心の育成 3 学校や地域のために貢献する 態度の育成 4 いじめ・不登校の未然防止と 早期発見・早期解決 5 「自分の命は自分で守る」意識 の醸成	1 について (1) 小中合同あいさつ運動を年に3回実施したり、代表委員会での話合いをもとに、 運営委員会であいさつを日常化させるスローガンを作成し、実践を呼びかけたり した。また、5年生が自主的に児童玄関で挨拶運動した取組は良かった。しかし、 あいさつの日常化は十分とは言い切れないため、「あいさつ・会釈指導週間」を設 定し全校で具体的な指導及び振り返り活動を行いたい。また、運営委員会を中心 に手だてを考えて実施していく必要がある。 (2) 服装など学校の決まりについては、全職員での共通理解を図るとともに、紙屋タ イムで全児童に向けて、指導をする機会を設けた。帽子をかぶる、服装の乱れな どは、全職員共通して繰り返し指導に当たる中で徐々に改善されてきた。帽子、 服装についてはもう少しなので、引き続き指導を継続していく。必要な決まりに ついては「紙屋っ子のやくそく」に追記し、全校で指導するとともに、保護者にも 周知する。	3.2	3.6	・あいさつ一つにしても昔なら家庭教 育の分野だと思うが、今は学校で細か な指導がされているのに驚いた。 ・新村歌壇の植栽の時に道路のゴミ拾 いからよく頑張ってもらい感謝です。 ・昔の遊びではもっと時間が欲しいく らい、こちらが楽しませてもらいまし た。やはり全体となると人数も多くて 各学年・クラスで十分に楽しませてあ げなかったです。 ・互いのよさを称賛する場は誠に素晴 らしいです。大人でも特に大事な活動 ですね。 ・あいさつは人が社会生活を行う上で 基本である。しっかりとしたあいさつ ができるように今後も指導をお願い します。 ・人権を道徳は違うのでそこを混同し ないように注意されたい。「為すべき こと」と「為してはならぬこと」また、 「為した方がよいこと」と「為さない 方がよいこと」を教えていくとよいと 思います。 ・清掃の仕方や道具の使い方を学ぶこ とで実学を学び地域のことを学ぶこ とで地域に誇りをもち、同時に他者も 同じであることを教えることで他者 をリスペクトできる心を育むことが できると思います。 ・人の良いところを見つける活動は大 変良いと思います。人の脳は意識した ことに集中する傾向があるので繰り返 すことで人の良いところに自然と 目が向くようになります。今後も続け ていただきたい。 ・近い将来、大きな災害が予想されて います。正しい知識と意識をもって自 分の命を守り周りの人と助け合う大 切さを身に付けてもらいたい。 ・いつでも、どこでも、しっかりとあい さつをしてくださるので気持ちが良い です。 ・登校時、信号機の所で見守りをして いると、元気で大きな声であいさつし てくれるので、気持ちが良い。 ・元気のよいあいさつをしてくれるの で、地域の方々はとても元気をもらっ
		2 について (1) 計画的に実施できたので、引き続き人権週間を設け、全職員で取り組み情報の共 有を図る。また、6年生については、市の人権担当者の研修会で研究授業を行い、 良い実践を見せることができた。 (2) 特別支援教育について、全校で話し合う機会がほとんどなかった。具体的には、 個別の児童についての状況把握や指導方法、組織体制づくりの検討ができていな い。特別支援教育 Co. が主体となり、会の進行のレジュメを準備し、話合いを進 める必要がある。今年度については、個別的教育支援計画、指導計画が作成され ていないので、早急に作成し、指導方針について保護者との合意形成を図り、次 年度へとつなげていきたい。エリア Co. やチーフ Co. といった専門機関との連携 はとれており、保護者や担任への助言もいただけたので大変有意義であった。通 常の学級にも特別な支援を要する児童がいるため、通常の学級の担任にも求めら れる知識やスキルを学べる特別支援教育の研修を研修センターの研修サポート 等を活用して進めたい。			
		3 について (1) 年4回縦割り班の清掃場所を交代した。その都度、紙屋タイムでの清掃指導を行 い、正しい清掃の仕方を全児童に伝えた。清掃班会も行うことで、担当場所・担 当職員で清掃の仕方や手順を押さえることができた。まだ等の使い方など、十分 でないところもあるので日常の清掃の中で指導をする必要がある。次年度は清掃 時間が15分間になるので、各学年で昼休みに教室前を箒で掃き、バケツを準備 しておくようにする。 (2) 各学年、一徳祭などの時間に環境について学習し、理解を深めることができた。 低学年の牛乳パックの紙漉き体験や中学年の SDGs カードゲーム、高学年のトヨタ 自動車のカーボンニュートラルの取組の学習等、外部講師も活用し、しっかりと 学ぶことができた。今後は、代表委員会をとおして、自分たちで決めた環境を 守る取組を実践し、環境教育を発展させていきたい。 (3) 総合的な学習の時間やこすもす科、生活・社会科などの学習の中で、地域学習を 行い、地域のよさや特産物等について学んだ。上学年は、城攻め踊りの歴史を学 び、地元の祭りに参加し、城攻め踊りを踊るなどして地域への思いを深めること ができた。 (4) 城攻め踊りや七夕飾り、昔の遊び、ミシン等色々な教科で大いに協力していただ いた。次年度も協力を依頼したい。			

		<p>4について</p> <p>(1) 毎月1回、悩みアンケート、教育相談を実施することによって、早期発見し素早い対応ができています。月1回スマイル委員会を実施し、全職員で情報共有ができ、困難な課題についても話し合うことができました。今後も計画的に開催していきたい。</p> <p>(2) 帰りの会等で、学級の友達のよさを称賛する場を設ける学級が多く、互いのよさを認め合う機会を作っている。運営委員会主催で「ありがとうの木」の取組を行い、友達のよさを見つけ合う機会を設けた。教室掲示をすることで自己肯定感を高めることにもつながった。</p> <p>(3) 日常生活の中で児童との会話を行うように努めている。気になる件については、担任だけでなく専科の先生など複数の先生から情報共有できている。しかし、気になる児童もいるため、継続して見守り、指導していく。</p> <p>5について</p> <p>(1) 年2回の立ち番指導を実施し、始業の日や終業の日、長期休業前などの集団下校や地区児童会の場で登校班での指導を徹底できた。今後も継続して計画的に行いたい。交通事故0が継続できている。</p> <p>(2) 風水害を想定しての保小中合同避難訓練を実施した。各職員の担当や保護者の流れ、すべてにおいてスムーズに行うことができた。次年度も継続して行う。地震、不審者対応、火災の避難訓練も計画的にできた。</p> <p>(3) 避難訓練や長期休業前等の紙屋タイムでの指導で命を大切に教育が実施できた。継続して行っていく。</p> <p>(4) 保護者引き渡し訓練は事前の連絡や保育所、中学校との連携がうまく図れたので有意義であった。家庭訪問や学級懇談だけでなく、奉仕作業の後や放課後に電話連絡するなど、担任が保護者と話すように心がけており、連携が取れていた。</p>			<p>ている。</p> <p>・昼休み中など、転んだり、泣いたり、トラブルがあったりしたとき等、すぐに上級生が「どうしたの」とそばに寄っていく姿があり、思いやりの心が育っており、すばらしいと思う。その反面、遊びの中で「そんなのもできないの」等何気なく言った言葉が相手を傷つけてしまったり、勝ち負けが気になり激しい行動をしたりするときもあるようだ。その都度考えさせたり個別指導をしたりするなど願いたい。</p> <p>・昼休みに先生方が一緒に遊んでくださる姿があり、子ども達はとても嬉しいようだ。みんなの行動や性格をよく把握して対応されており感謝します。</p> <p>・帰りの会で友だちのよさを見つけ合う機会を設けておられ、すばらしい取組だと思います。</p>
体 育	<p>重点目標： <u>体力の向上</u></p> <p>手段： 1 体力向上の推進 2 規則正しい生活習慣の育成 3 健康に対する意識の向上 4 安全「自分の命は自分で守る」意識の醸成</p>	<p>1について</p> <p>(1) 体力テストABC判定児童の割合は、81％で数値目標を達成している。特に、2年、5年については良好な状態である。しかし、DE以下の判定児童が各学年に1名ずつはいるため、日常的に運動に慣れ親しむ必要がある。そのため、体力向上プランを作成し、全校的に外遊びの推進や紙屋タイムの充実を図る必要があるが、外遊びをする児童は固定化しており、90％は達成していない。縄跳びカードや持久走カードを使って昇級の賞状を配ったり、紙屋タイムで高学年が難しい縄跳びの技を紹介したり、登校班や清掃班といった縦割り班で長縄のハの字飛び大会を計画したりして、「自分も跳びたい、できるようにになりたい」といった機運を高める仕掛けを行いたい。合わせて、体育の授業の中で運動場サーキットを行い、多様な筋肉を使い、多様な動きにも触れさせていきたい。特に、体づくり運動をととして、体をバランスよく使うコーディネーション能力を育成していきたい。</p> <p>2について</p> <p>(1) 早寝・早起き・朝ご飯については99.5％でほとんどの児童ができていたが、歩いて登校については、学校保健員会で歩くことの大切さについて外部講師を招いて講演会を行ったが、ほとんど毎日送迎の児童もいて偏りがある。生活リズム習慣チェックでは、台風接近でもあったが、59.6％しか歩いていなかった。PTA保体部でも呼びかけをしてもらう。肥満傾向については12.9％で今年度は目標クリアできた。来年度は、継続して年2回の生活リズム習慣チェックを実施する。肥満傾向の抑制に係る指導については、集会などで、間食（ジュースの砂糖の量）などについて話して肥満指導が全体で行えるようにする。</p> <p>3について</p> <p>(1) 授業の始まりと終わりに授業あいさつの指導の中で、各学年学級において立腰指導を行った。また、集会活動において、立腰指導についての全体的な指導を行った。今後とも、常時、担任の授業時に声掛けをする。また、集会などで立腰指導をする。</p> <p>(2) 鉛筆の握り方・箸の持ち方については、できていない児童もいるので、その場での指導の徹底を図った。約2か月に1回定期的にチェックを入れているものの、できていない児童は固定化している。今後については、巡回指導も定期的に入れて指導していくとともに、参観日でも話題にし、保護者の協力を得るようにしたい。また、箸の持ち方については、マナーカードを貼ったり、常時指導を行うが、家庭での指導を徹底できるように声掛けをしていく。</p> <p>(3) 健康観察の徹底については、どの学年も徹底できていた。しかし、欠席が多い児童にも偏りがみられる。休日の過ごし方についても、児童に話をしていく必要があるのと同時に、保護者にも話をしていく機会を設ける必要もある。保健だよりの発行は定期的にはできていた。むし歯の治療では、治療率がまだ目標達成できていないので、PTA保体部でも参観日で呼びかけをするなどして、3月までには、目標達成を目指す。</p>	2.9	3.1	<p>・昔、600人以上が学んでいた紙屋小学校の校庭はそのままあるので今のグラウンドを色々工夫して活用され、児童みんなが楽しみながら体を鍛えてもらい良いです。</p> <p>・小中合同運動会は連携のあり方が大変そうだったので本当に素晴らしかったです。</p> <p>・体力向上は必要なことであり外で活動することも重要です。これからも体力向上に向けてしっかり仕掛けを行ってください。</p> <p>・登校を車で行う家庭があります。色々考えはあると思いますが「きまりを守る」という意識がその親に乏しいのかもしれない。また、そういう方は活動への参加もなく「学ぶ」機会を失っています。そういう方に対し夏休みの面談等で考えを聞き、何がその人の「きまりを守る」ということに対するメンタルブロックになっているのかを洗い出し、そこに対処しない限り改善せず、その子どもたちもそれ以上に「きまりを守らない」ようになり負の連鎖となり地域の活力低下に繋がる大きな要素を孕んだ問題だと思います。</p> <p>・立腰の時に30秒ほど自分から30m先の出来事を耳で察知する訓練をして何に気が付いたかを発表させると姿勢維持と同時に集中力を高める訓練ができます。幼児でも喜んで取り組み、自ら発表するので面白く集中する訓練ができるので試してみてください。</p> <p>・早寝早起きは幼少期からの習慣が大切なので保育園でも家庭への呼びかけを行っていきたい。</p> <p>・合同運動会や持久走、駅伝大会の時、学年を越えて応援等、よくできていると思います。</p> <p>・毎日送迎する家庭があることには、とても残念。家庭の問題がある。</p> <p>・遊具や運動器具の安全点検がしっかりなされ、ブランコやサッカーゴールなどが新しくなり、子ども達はとても喜んでいる。</p> <p>・先生たちの励ましが嬉しいようで、縄跳びや竹馬、一輪車等、一生懸命に練習する子が多い。その中で子どもたちの中から「すごいね」「できたね」と他児を褒め合う姿もあり関心である。</p>
食 育	<p>重点目標： <u>望ましい食習慣の育成</u></p> <p>手段： 1 望ましい食習慣の育成 2 食を通した感謝の心の醸成 3 家庭・地域等との連携による食への意識の向上 4 安全管理の徹底</p>	<p>1について</p> <p>(1) 日常の給食指導については、どの学年も年間指導に基づきながら実施している。マナーカードを利用して今後もマナーの徹底を図る。</p> <p>(2) 残食についても、各学年の担任の指導のもと、残さないで食べる指導がされているので、ほとんど残食がない。これからも、残食0を目指し指導の徹底を図る。</p> <p>2について</p> <p>(1) 給食感謝週間は1月実施であり、12月に給食センターや各業者あてに、感謝のカードを書いている。給食感謝集会では、栄養教諭を招いて、全校児童で感謝を伝えることができた。業者の方がみえているときなどにも挨拶をしたり、「いつもありがとうございます。」と声をかける児童もいるので、そのようなすばらしい児童の紹介なども今後集会などで紹介していけると、より一層感謝の気持ちが持てる児童の育成ができるのではないかと思います。前述の良い習慣の例などを全校集会などで賞賛するとともに道徳教科等と連携を図って指導を展開していく。</p> <p>(2) 給食配膳時に学担が当番指導を行う際、養護教諭と連携を取りながら当番の衛生管理や均等配膳等についての指導を行ってきた。また、第1学年のクラスでは、栄養教諭と養護教諭が連携して給食を題材にした栄養指導を行った。その際、保護者にも指導内容を公開した。今後とも学担と養護教諭が連携して栄養指導を行っていききたい。</p> <p>3について</p> <p>(1) 栽培活動については、一人一鉢の実施や、花壇の花植え、学年によっては芋栽培、稲作体験・野菜作りの実施ができた。また、環境教育でハーブ作りなども実施し、ハーブ農家の方や市の観光課の方との連携もでき良かった。今後も野菜づくりやサツマイモ、コメなどの各種栽培を積極定期に行っていく。</p>	3.4	3.8	<p>・学校田でできたもち米を使って卒業時に紅白餅でお祝いできるという田舎ならではの活動も心に残る一つでしょう。</p> <p>・残食0は素晴らしいです。給食センターの職員の方も残食0はうれしいと仰っていました。これからも残食0を目指してください。</p> <p>・「ありがとう」の気持ちを表現するのは素晴らしいです。食に対する考えを道徳と連携させることも素晴らしいです。次の代へ伝えていくようにしていただけたら嬉しいです。</p> <p>・作物やハーブなどの栽培を通じて農家さんや市との協力のもと、本物に触れながら地域との連携ができたことが大変良かったと思います。</p> <p>・アレルギー体質が増えている昨今、アレルギーに対する理解は重要です。職員の方々が理解を深めていただけることは安心感が増し、嬉しいことです。</p> <p>・給食の残菜がほとんどないことは素晴らしく、今後も指導をお願いしたい。</p> <p>・食事のマナーについて、マナーカード等</p>

		4について (1) 給食当番については各学年の担任の指導のもとしっかりと指導できていた。今後とも継続的に指導を展開していく。 (2) アレルギー対策については、アレルギー調査を実施した。また、アナフィラキシーの職員研修を実施した。アレルギー食があった日には、担任に声かけをして間違いのないようにしている。食物アレルギー事故0であった。 今後とも給食配膳時に除去食の適正管理と指導を行っていく。また、アナフィラキシーの職員研修を実施していく。			利用されているとのことであるが、ついてしまった癖はなかなか治りにくいので自分から気づくという意味でも良い取組だと思います。 ・給食の献立について児童自らが放送で紹介し、食材についても調べたことを話したりもしているので食べる意欲にもなり大変良いと思います。 ・自分で野菜を育てたり地域の方々との芋栽培や稲作体験など、なかなかできない経験なので良いと思う。
その他	教職員の働き方改革 手段： 1 リフレッシュデーの実施 2 全職員による施錠管理	1について (1) 水・金曜日の退庁時刻17：15は難しいものの、18：00にはすべての職員が退庁できている。	3.0	3.4	・働き方改革で色々と難しいこともあるのですが良い方向に向かえるように協力して取り組んでください。 ・先生たちが疲れていては、良い指導はできないので、良い取組だと思います。
		2について (2) 施錠は協力的であり、全職員で管理できている。			

次年度の方 向性について の校長所見	本年度の取組と次年度に向けた改善について 家庭及び地域の協力をいただきながら、また、職員がよく努力し協力しながら、学校教育目標の具現化に努めた。小規模校のよさを生かした落ち着いた学習環境が整ってきており、児童の成長の姿にそれが反映されている。 【知育】いずれの項目においても概ね良好な結果を得た。特に、基本的な学習習慣・学習規律の指導は、改善が図られ昨年度に比べ高い数値結果となった。また、日々の授業改善も、職員がよく努力した結果、本年度は特に児童がよく発表する姿がみられるようになり、確実な成果につながっていると考える。表現力育成においては、昨年以上に多数の作品入賞者があり、児童に更なる自信や学習意欲をもたせることにつながった。ICT活用が良好である反面、本年度は読書推進が課題となった。家庭学習の課題は、自ら学習できる力を育成することである。いずれも主体的な態度の育成を図るための模索を次年度も続けたい。 【徳育】基本的な生活習慣の形成、人権教育や環境教育、地域貢献の態度、「自分で自分の命を守る」意識の醸成の項目において、良好な結果であった。地道な日常指導に加え、いずれも外部講師の招聘や地域との連携を図りながら指導の工夫改善を行い教育活動の充実を図ってきたことが、このような成果につながったと言える。特に、地域貢献の意識は向上しており、成果が大きい。いじめ・不登校等も、職員がよく努力し協力しながら早期発見・早期解決に努めてきた。引き続き丁寧な指導に努力したい。特別支援教育は、十分な活動ができなかったので次年度は計画的に運営していく。 【体育】規則正しい生活習慣の育成と健康に対する意識の向上は、概ね良好である。学校保健委員会や家庭教育学級において家庭への啓発を図ったことで、特に「歩いて登校」「肥満」等で改善傾向がみられる嬉しい結果となった。今後も家庭との連携を図り、児童の健康維持向上に努めたい。体力向上は、芳しくない結果となった。次年度は、体育の時間をはじめいろいろな教育活動を見直し、運動に親しみ進んで取り組む活動を展開していきたい。 【食育】いずれの項目も昨年度に引き続き高評価であった。特に本年度は、地域の方と連携した「弁当の日」「栽培活動」の充実だけでなく、環境教育との関連を図ったハーブ栽培や料理教室等を実施したことにより、食に対する感謝の心だけでなくSDGsの意識も醸成できたことが成果である。次年度も引き続きの指導の充実を図りたい。 【その他】リフレッシュデーの数値は低かったが、日常において早く退庁できる職場環境となっている。施錠の協力体制もよい。このまま効率的な業務の維持推進に努める。
--------------------------	---